

大阪大学図書館報

Vol. 7. No. 1. March. 1973

図書館に想うこと

中野六郎

長い間、わたしたちは本館の狭小をかこってきた。ようやく年来の宿願がかなって、昨年3月増築が完成した。4月には新装の新館を開館することができたのである。増築によって、本館は一挙に、2.5倍の7,500 m^2 に広げられ、座席数は約900に増え、書庫棟（本学では研究閲覧棟と呼称）は約50万冊の収蔵が可能となった。冷暖房の空調も完備された。本館は面目一新、名実ともに近代的な大規模図書館となった。

新しい酒には新しい革袋といわれる。新しい革袋ができたからには、芳醇な新しい酒を盛りたいものだ。今日の日本の世相のように、虚飾のなかの貧困であってはならない。われわれは美酒をつくるべく力めねばなるまい。もっとも、美酒をかもすには杜氏の確かな腕前を必要とすることは勿論だが、ぶどうもいいものでなくてはならない。

毎年といっているほど、国立大学図書館協議会の総会で、図書館予算の問題が論議される。予算獲得の苦勞は、全国の大学に共通なのであろう。図書館協議会から文部省への要望事項の中には、例年図書館維持費や図書費の増額要求が入っている。ことほど左様に、日本中の大学図書館が予算で難儀しているのであろう。

国立大学の図書館予算は、財源の面からみると、大きく分けて文部省配当と大学の校費の二本の柱からなるが、大学の校費については、中央共通経費と部局分担金とがある。それぞれの大学は、これらのどのようにかの組み合わせによって予算をたてている。文部省配当の図書館維持費は、48年度には単価の増額が期待できそうだが、いかなる大学でも、文部省配当の維持費だけで、必要経費のすべてを賄うことはできないであろうから、必然、大学の校費からの配分を仰ぐことになるが、中央共通経費方式によるか、部局分担金方式によるか、あるいは両者に依存するとしてもその割合はどうあるべきかなどのことは、議論の分れるところであろう。そのことは、単に予算技術や負担の多寡の問題だけのものではなく、図書館の位置づけにかかわる問題でもある。

昭和45年に、図書館は、白書をもって図書館の実状を明かにし、職員の不足を訴えた。今日では、第2次定員削減が加わり、事態は当時より更に深刻となっている。施設が増えた。購入図書も年々増加している。図書の増加は受入、目録業務の増大に直結するのである。更にはまた、学内外のサービスの需要が増加していて、これにも応えなければならない。積極的なサービスどころか、従前の業務すら渋滞しかねまじき状態である。現状はまさにこのとおりである。現行制度では、業務の簡素化ができる範囲は極く小さい。また、法令の規定があらうとなかる

うと、員数を合わせる式の手抜きはできるものではない。機械化の促進、作業方法の合理化、業者への委託等、可能な限り工夫と努力はしてみなければなるまいが、なかなかの難問である。図書館職員の体質にも問題があるとの批判は当たらない。また批判に耐えられるものでなくてはなるまい。ここで、わたしは奇妙にも、近世の農民を連想するのである。

本学は全国の大学図書館にさきがけて、コンピューターを導入し、昨年4月稼動を開始した。コンピューターは、今日ではもはや図書館界においても、未来的なものではなく今日的なものとなりつつある。文学省は阪大を嚆矢として、次の年の47年度には1大学へコンピューター予算を配当し、48年度には更に1大学に配当する予定ときいている。コンピューター研修会参加者の盛況や、本学の見学者が踵を接するの感がある状況から推測して、図書館へのコンピューター導入の熱意はますますさかになるものと思われる。結構なことである。コンピューターがどのジャンルで、どのような圏で最も効率を発揮するのか、また、コンピューターは具体的、個別的なものを否定して、抽象的、普遍的世界へ展開するものであるなどのことは別の議論として、コンピューター周辺の問題を冷静にみつめなくてはならない。コンピューターの経費は可成りの額を必要とするが、これは文部省なり大学なり決意しさえすれば何んともなる。しかし、コンピューターの要員は金のように参らない。幸い本学では、情報管理室に人材を得ている。しかしそれでもなお、補佐要員の養成が焦眉の急務となっているのである。「大学図書館で働くコンピューター要員」の養成と確保の措置が、国の行政として急がなければならないであろう。

本館には毎日、多数の学生が入館している。貸出・返却の学生、館内で図書館ツールを利用して勉強する学生、単なる自習のために入館する学生と、学生の図書館利用の様態はいろいろであるが、それらの学生の態度もまたさまざまである。開館を待ちかねるようにして入館し、いつも同じ席で本を読む学生、図書館の運用について建設的意見をもって来る学生、床に落ちている紙屑を何気ない態度で拾って屑かごに捨てる学生など、好感のもてる学生も多いが、一方では、閲覧室で他人の迷惑をかえりみず談笑する学生、喫煙する学生、職員が注意すると粗野な言辞を返へしてくる学生などもしばしばである。図書館でのマナーはかくかくしかじかと言うのではないが、多人数が利用する図書館であるからには、それにふさわしい秩序がある。図書館は学生会館とは違う施設なのである。現代学生かたぎについて詳かには承知していないが、学生諸君の自覚を促したい。図書館の職員は、自分の仕事が教育と研究に貢献していると確信しているが故に、誠意を尽して、仕事をし、学生に応接している。それだけに、学生の不真面目な態度には我慢がならないのである。

館報編集委員に求められて思いつくままに雑感を綴ってみたが、これはもとより単なる私見に過ぎないことをおことわりしておく。
(附属図書館事務部長)

学生希望図書一本館一

フルートとギターのための二重奏曲集
岩村充起 他編曲 (共同音楽出版)
1914年8月(上)(下)
ソルジェニツイン (新潮社)
佐賀県の歴史(県史シリーズ41)
(山川出版社)
日本教について 一あるユダヤ人への手紙一
イザヤ・ベンダサン 山本七平訳
(文芸春秋)
無機化学入門(無機化学シリーズ1)(培風館)

小説モーツァルト
フェリックス＝フーフ 三浦鞆郎訳
(音楽之友社)
大分県の考古学(郷土考古学叢書)
賀川光夫 (吉川弘文館)
思考課程と情報科学
東大情報科学研究施設 編 (産業図書)
教育の課程
ブルナー・J・S (岩波書店)

週刊・朝日ゼミナール
 (朝日新聞東京本社朝日ゼミナール事務局)
 成長の限界 (ダイヤモンド社)
 ラッセル自叙伝 (I), (II)

ラッセル・B (理想社)
 琉球共和国 汝花を武器とせよ
 竹中 勇 (三一書房)

教官著作寄贈図書

一本 館一
 布目潮風 (教・教授)
 唐才子伝之研究 布目潮風 他著
 (大阪大学文学部内アジア史研究会 昭47)
 中野貞一郎 (法・教授)
 強制執行・破産の研究 中野貞一郎 著
 (有斐閣 昭46)
 一中之島分館一
 河村洋二郎 (歯・教授)
 臨床家のためのオクルージョン
 (医歯薬出版 昭47)
 中川米造 (医・助教授)
 市民と医療 (日本評論社 昭47)
 古川俊之 (医・講師)
 臨床検査技術全書3巻 血液検査
 (医学書院 昭47)

医療情報システム資料集成 自動化総合健診
 システム編 (経営能率研究会 昭47)
 杉本 侃 (医・講師)
 鞭打ち損傷 (永井書店 昭47)
 園田孝夫 (医・教授)
 泌尿器科治療学 (医学書院 昭45)
 一基礎工図書室一
 藤沢和男 (基工・教授)
 マイクロ波回路(電子通信学会大学講座15)
 (コロナ社 昭47)
 中村 晃 (基工・助教授)
 Introduction to π -Complex Chemistry
 (Plenum, '70)
 一産研図書室一
 岡本 平, 鈴木 章 (産研・教授)
 金属の凝固 岡本 平, 鈴木 章 共訳
 (丸善 '71)

本館受入参考図書

12-2月に受入済みのもの
 経済学史小辞典 (学生社)
 体系証券辞典 (東洋経済新報社)
 難訓辞典 (東京堂出版)
 公害問題総覧 (ケイザイ春秋社)
 藤田美術館名品図録 (日本経済新聞社)
 化学用語辞典 (技報堂)

労使関係白書 ('72) (日本生産性本部)
 行事 365 ('72) (毎日新聞社)
 新潮世界文学小辞典 (新潮社)
 世界教育事典 (帝国地方行政学会)
 西洋の書物 (雄松堂書店)
 外国人の姓名 (帝国地方行政学会)
 数学小辞典 (共立出版)

レファレンス担当の院生から

和 気 正 芳

附属中央図書館は、72年4月に増改築され、冷暖房完備・大きく明るく、展望良しと、真に結構な場所となりました。ぶらりと訪れ、閲覧室の窓辺に座り、遠く運動場に走り蠢く白い運動着を眺め、基礎工前の池の畔の草木が揺れるのを味わうだけでも楽しく、目を室内に転じて、可愛げな女子学生が何事か一心に読み耽る姿でも目にすれば、猛然と勉学意欲さえ湧き出しそうな環境です。

この図書館には本が有り、当然ながら沢山有ります。だから大抵の事はここで勉強出来るはずで、本が多く有り過ぎて困まるぶんには、目録も有るし、専門職員もいるのですから。と

云っても、目録でわかるのは書名までであり、本の中身まで図書館当局は関知してくれないだろうと学生諸君は思うでしょう。事実、なかなか自分の知りたい事は書名や著者に結び付かず、目録をひく段階にもならないものです。経験を積んだ研究者にとっても文献調査は大仕事ですから、若い教養部の学生諸君にとっては取りつき難いのも無理ありません。

ところが、本館二階の参考カウンターには、「読書相談」の看板を掲げて、大学院生が座っています。皆さんが勉強したい事と本との仲立ちをやろうと云うのです。私も木曜、土曜に自然科学系を担当している一人です。例えば「ホール素子を使って磁場を測定する方法について知りたい(T2年生)」と質問が来れば、実験物理学を専攻する私は「これこれのようにやれば良く、こんな本を読んでみてはどうですか」と答えます。大学院生は自分の専門分野に近い領域では少し多くの知識がありますから、能率よく本探しを手伝えるわけです。

もちろん、質問が丁度私達の専門分野に当るとは限りません。むしろ、専門からはずれる場合の方が普通です。実例でお話ししましょう。「シグナルフロー線図の利用効果を詳述してあり、プロセスモデルの設定について、その一般的な手法と問題点に触れているような本が読みたい(S4年生)」と云う要求がありましたが、これは私の専門分野からかなりはずれています。それでも一週間待ってもらって、「このような問題は、プロセス制御の一般的な本によく載っています。Katuhiko Ogata “Modern Control Engineering” や B.C. Kuo “Automatic Control System” 和書では高橋 “システム制御” あるいは伊井谷・堀田 “プロセス制御の基礎” 等で十分でしょう。それより詳しくは個々の論文に当たってください。……」と答えることが出来ました。阪大生活8年に培った顔の広さを頼りに、制御工学を専攻している院生等に聞いて回った結果です。このように私達は学生と教官の間にある院生の特質を生かして、一種の仲介業も行なうのです。

他にも、先輩として勉強のコツを伝授するとか、自主ゼミ用のテキストを紹介するとか(どこまで十分にやれるかは別として)おおよそ何でも、極めて気軽に(これが重要です)相談に乗るのですから、まだ大学生活に慣れていない若い学生諸君にとって、この上なく便利だと思えます。

この様に親切なレファレンスサービスが行なわれているとなると、利用者は後を絶たず、当然担当者は多忙をきわめるであろうと推察されるでしょうが、実はそうでもありません。不思議なことに、一ヶ月に10件を上回る事は決して無いのが現状です。学生諸君は、必要な本を探し出すレファレンステクニックを十分身につけており、私達の援助は必要無いのでしょうか。それとも、講義形式の受身の勉強に慣れてしまって、問題点に自分で取り組み、図書館で調べようとする気にならないのでしょうか。

主な原因は宣伝不足に有ると思います。このようなシステムがあることが十分知らされていないのではないのでしょうか。現に利用する人は、しっかり利用しています。「家庭教師の生徒に聞かれて困っているんですけど教えて下さい。この問題解けないんです」と云うのまであったほどです。だから、ここにこうして駄文を掲げ宣伝に務めようとの次第なのです。

情報化時代と言われる今日、学術文献もエクスポネンシャルに増えていると伝えられますが、レファレンス業務に携わって見ると、それが実感として感じられます。必要な文献を探し出す技術は将来ますます重要になって来るでしょう。早くから上手な情報収集法を身につけておくことは必須の事となりつつあります。そのため意識的に図書館の利用に務めてもらって良いと思います。新らしく一年生を迎える季節が近づいたこの頃、来年度はどのように院生レファレンスサービスを利用してくれるだろうか、つい期待してしまうのです。

(理学部大学院博士課程二年)

ついて述べ、最後に、将来の展望として、医学情報（カルテを含む）は中央に集中し、T.S.S方式による端末を利用する方向になるであろう。また、医学情報を持っている医師、薬局、図書館が、その保持している情報を交換するための組織を育てなければならない、と結んだ。また、MEDLARSについて、医学情報にたづまわる者として、大いに関心のあることも表明された。

日 程

- 1月18日(木) 近畿地区国公立大学図書館協議会 第2回企画委員会(中之島分館)
 1月24日(水)～1月25日(木) 第46次国立七大学附属図書館協議会および部課長会議
 (福岡共済会館)
 2月20日(火) 近畿地区国公立大学図書館協議会 業務機械化研究集会(第2回)(本館)
 2月26日(月) 国立大学図書館協議会常務理事会(本年度第3回)第11回「新しい大学図書館像特別委員会」(京都大学附属図書館)
 2月27日(火) 近畿地区国公立大学図書館協議会 参考図書に関する委員会(本館)

人 事

来 訪 者

- 1月22日(月) 沙藤 隆茂(北海道大学附属図書館整理課長)
 1月31日(水) 石森 正治(千葉大学庶務部長)
 2月1日(木) 稲野 信力(東京工業大学事務局長)
 “ 田崎 正(同 庶務部長)
 2月5日(月) 青木 鷹司(東京外国語大学事務局長)
 2月14日(水) 山瀬 善一(神戸大学経済学部長)
 “ 酒井 弘武(“ 経済学部事務長)
 2月19日(月) 小松 勇作(東京工業大学附属図書館長)
 2月20日(火) 窪田正八郎(東北大学附属図書館整理課長)
 “ 平 清二(“ 整理課長補佐)
 2月26日(月) 佐藤 義正(東京教育大学附属図書館整理課長)

職員の異動

- 採用 宮崎茂樹(47.12.1付 吹田分館運用掛)
 阪森サヨ(47.12.25付 中之島分館受入掛)
 福嶋敦子(48.1.11付 閲覧課閲覧掛)
 辞職 石田幸子(47.11.30付 “ “)
 木下夏子(47.12.27付 中之島分館受入掛)
 西屋千洋(48.1.31付 “ 運用掛)

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 上島順二郎(長) 木本明男 松浦 正
 津田恭司 山下 進 泉 文雄
 レポーター 浅野次郎 田中久文 町井照子 小山靖裕 篠田恭子 河崎戎三